

山田 奈津子 助教
修士(看護学)
Natsuko Yamada
✉ natsuko.yamada@komatsu-u.ac.jp

研究
Keyword クリティカルケア看護師、重症患者、身体ニーズ、非言語、cue

プロフィール

2012年 東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科博士(前期)課程 修了
2012年 聖マリアンナ医科大学病院 看護師
2013年 急性重症患者看護専門看護師(日本看護協会)取得
2015年 金沢医科大学 助教
2021年 帝京大学 福岡医療技術学部 看護学科 講師
2023年 公立小松大学 保健医療学部 看護学科 助教

研究分野

臨床看護学、クリティカルケア看護学、学習科学

所属学協会

日本クリティカルケア看護学会、日本CNS看護学会、日本看護科学学会

専門分野・研究分野

重症患者の看護アセスメントに関する研究 意思表示困難な患者が発するメッセージ“cue”

“cue”とは言語的な意思表示ができない人が、何らかの方法で発するサインである。

たとえば、母子間において言語的な意思表示ができない乳児の非言語的反応である“cue”を母親が合図として読み取り、母子相互作用が促進される。

ICU(集中治療室)に入室している患者は、生命の危機的状態にある。このため、意識が混濁しており、救命や生命維持を目的とした人工呼吸器や補助循環装置が装着されているなど、意思表示が困難な状態であることが多い。

私はICUで看護師として勤務する中で、重症患者と向き合う看護師が、測定機器の数値やしぐさの微細な変化を通して伝える苦痛や苦悩などのメッセージを読み取り、患者の苦痛に寄り添う看護ケアを目の当たりにし、“cue”の概念に着目した。

“cue”の構成概念や“cue”を読み解く手法はいまだ明らかではなく、熟達した看護師は直観や手探りで“cue”を察知している。

研究内容

微細なサイン“cue”が発する患者の思いを汲み取る

ICUに入室する重症患者をケアする看護師を対象にしたインタビューにより、看護師がキャッチする意思表示困難な重症患者の“cue”の構成概念と、看護師が“cue”を察知し、これを読み解くプロセスを明らかにした。

さらに、この研究を通して、看護師は患者の思いを読み解くプロセスを繰り返すことにより、“cue”に対する感受性を高めていることがみえてきた。今後は、看護師が“cue”をキャッチし重傷患者の意思を読み解き支援する方法を確立する研究に取り組んでいく予定である。

観面	カテゴリー	概念
cueを捉える	訴えに気づく	目や口、指先などのわずかな動きや刺激によって起こる些細な反応またはデータの指標は患者の伝えられた表現 わずかな動きや反応は患者の思いを理解する手がかり
	ケアの希求	重症患者のわずかな動きや反応を通して表される病状や思いのメッセージ 重症患者自身が発するニーズや援助を欲し身体全体で訴える言葉にならない声
	顕在・潜在的ニードを推察する	患者の表情やバイタルサインから患者の苦痛や不安を推察する 得られた情報や処置による患者の反応や症状を予測する
cueを読み解く	五感をを用いて確認する	声かけや刺激を与え患者の反応を探し出す モニターの変化やアラーム音で察知した患者の変化や異常を自らの五感を通して検証する 患者の家族や特別に人に示す反応を読み取る
	潜在的ニードを振り返る	患者の状況を自分自身や身近な人に置き換え潜在的ニードを振り返る 重症患者のわずかな動きと身体状況を照らし合わせて患者の思いとて言い換える 得られた情報から患者の身体状況について振り返る
ケアを創り出す	ケアの方向性を創る	処置に対する患者の反応からケアのタイミングを見計らう 患者の身体状況の推移や経過を医師に伝え薬剤投与など処置が施されるように協定する
	患者を意思ある存在として尊重する	重症患者は侵襲的治療によって何らかの苦痛を感じている存在としてみなす 侵襲的治療を受ける重症患者の回復のイメージから日常生活の再獲得について見直す
cueへの感受性を高める	読み取りの課題により感受性を高める	経験に培われた感覚を頼りに患者の思いに近づくため自問自答する わずかな動きからでも患者の感覚や思いに沿うことで患者の安心を高める 患者のわずかな動きや反応を繰り返し確認し患者の思いに沿う経験を積み重ねる

表1 意思表示が困難な患者のcueの理解と看護アセスメント



重症患者の声なき声に応えたい

シース・地域連携テーマ例

- 看護、介護、福祉関係者を対象にしたフィジカルアセスメント技術

受賞

- 2018年6月日本クリティカルケア看護学会優秀論文賞

論文

- クリティカルケア看護師の侵襲的治療を受ける意思表示が困難な患者のcueの理解と看護アセスメント、山田奈津子他、日本クリティカルケア看護学会誌13 (1), pp49-57, 2018年4月
- 看護学生のストーマサイトマーキングにおける超音波画像診断装置を用いた腹直筋確認技術の信頼性、紺家千津子他、日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌24 (3), pp281-288, 2020年11月
- COVID-19パンデミック開始段階における看護師の心理社会的反応に関する文献レビュー、古賀 雄二他、日本クリティカルケア看護学会誌19, pp184-196, 2024年3月

書籍等出版物

- 【授業がわかる！実習で使える！基礎のバイタルサイン臨床のバイタルサイン】基礎の呼吸測定、山田奈津子、Nursing Canvas, 1 (1), メディカル出版, 2013年4月
- 【患者の不安・痛みなどの訴えをどのようにとらえ、記録するか？】言葉に表れない表情やしぐさから痛みや不安をどのようにアセスメントしケアに結びつけていくべきか、看護さくらと看護過程、日経研出版, 2015年12月

講演・口頭発表等

- クリティカルケア看護師の侵襲的治療を受ける意思表示が困難な患者のcueの理解と看護アセスメント、第8回日本クリティカルケア看護学会学術集会, 2012年6月
- cueの文献レビューによる意思表示困難な重症患者の非言語cueの理解、第38回日本看護科学学会学術集会, 2018年11月

競争的資金等の研究課題

- 重症意思表示困難患者のcueの理解により身体ニーズアセスメント尺度の開発、科学研究費補助金(若手研究B), 2016-2019

社会貢献活動

- 日本クリティカルケア看護学会 評議員(2020年～)
- 日本クリティカルケア看護学会 せん安委員会副委員長(2020年～2023年)
- 日本クリティカルケア看護学会 専任査読委員(2020年～)

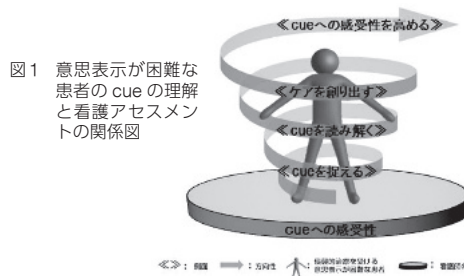


図1 意思表示が困難な患者のcueの理解と看護アセスメントの関係図